

複式算数 授業づくり講座

in 安芸市立穴内小学校

授業をアップデート!
生きて働く学びを創る!

令和5年10月発行
東部教育事務所



東部管内の
講座情報



本事業では、学習指導要領が目指す授業づくりを推し進めるとともに、日常的に授業研究に取り組む風土づくりを行い、自ら学び続け、共に高め合う教員の育成を目指します。複式算数では、数学的活動を通して、資質・能力を育成する単元づくり及び授業実践、また、複式の特性を生かしながら資質・能力の育成へ向かう授業実践を提案します。

安芸市立穴内小学校で行われた（7月31日）教材研究会での学びの様子をお知らせします。

参会者事前アンケート

Q. 複式学級によさについて

- ・上学年・下学年の学習内容を見ることが出来る。(自然と予習復習となっているところ。)
- ・学習リーダーを育成することで、児童が主体的に学び合うことができる。
- ・児童同士で教え合いや助け合いができる。
- ・学習内容の系統性が分かる。(児童も教師も)

Q. 複式学級の指導で困っていること

- ・2学年分の教材研究。
- ・学習リーダーの育成。
- ・「直接指導」「間接指導」や「わたり」「ずらし」のタイミング。
- ・間接指導時の児童の見取り。
- ・少人数でも学びを深めることができる話し合い活動の方法。
- ・授業中に自分の考えをもてない児童への手立て。



学校提案

第3学年「三角形と角」

第4学年「面積のはかり方と表し方」

【児童の実態】

自分の考えや思いをもっているものの、発表の場面になると自信のなさや恥ずかしさ、間違ふことへの不安感から消極的になり、声が小さくなったり、授業のとも学びの場面で意見交流が活発に行えなかったりすることがある。

【目指す児童の姿】

自分の考えをもち、根拠をもとに説明ができる児童

単元ゴールで目指す児童の姿

【第3学年】

「身の回りにある図形に関心をもち調べたり、それらを構成する要素に着目したりして、根拠をもって伝え合おうとする姿」

【第4学年】

「面積の大きさを数値化して表すことの良さに気付き、効率的、能率的な求め方を考え、根拠をもとに伝え合い、生活や学習に活用しようとする姿」

【今年度の方向性】

1. 児童が主体的に学び合える複式の授業にすること。
2. 効果的なICTの活用方法を探ること。
3. 数学的な見方・考え方を働かせながら豊かで確かな算数科の力をつけること。

【1学期からの取組】

- ・授業をパターン化し、授業の筋道が児童に分かるようにする。
- ・授業の流れを事前に黒板に提示し、学習リーダーが中心となって進められるように準備しておく。
- ・学習を進めるためのヒントとなるキーワードを提示し、大幅なズレを防ぐ。
- ・全員でキーワードを使ってめあてを設定したり、見通しを立てる。
- ・一人学びからペア学び、とも学びへと共有の場を広げていけるようにする。
- ・まとめでは、キーワードや気付きをもとに児童が文章化してまとめる。

改善するために

協議内容より

協議の視点「児童の思考が深まるような学習の流れにするためには、どのような工夫や手立てが必要か。」

【導入の工夫】

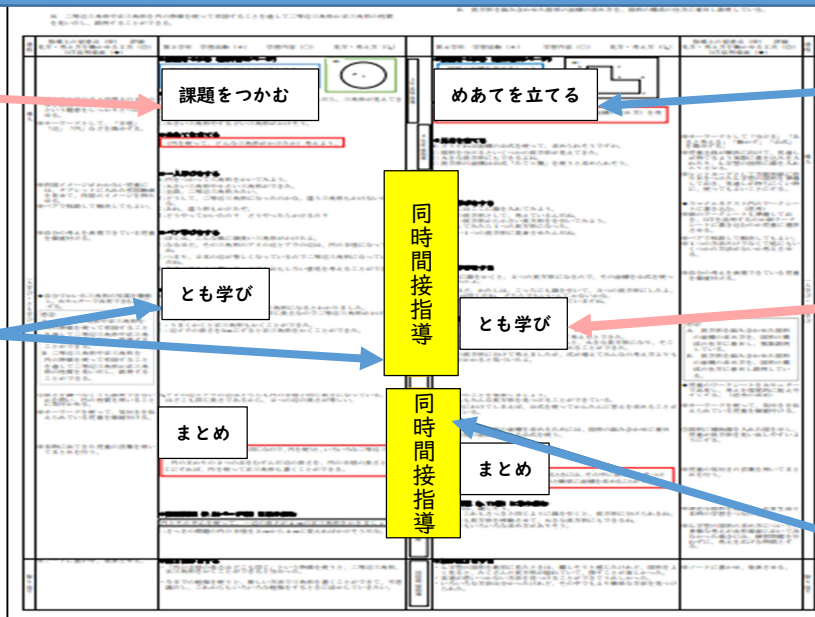
まずは、図形を観察させること→構成する要素に着目して図形をイメージさせることができるのではないか。

【同時間接指導・直接指導】

大事な言葉やねらいに迫る発言が出てこなかったらどうするのか。
後半から同時間接指導は、難しいと思うので直接指導も必要ではないか。



課題のめあて、直接・間接指導のポイント、ペアやとも学びについてなど、たくさんの学びがありました。2学期から子どもたちとの授業が楽しみになってきました。



【キーワード】

キーワードを出すタイミングは？

【面積の求め方を考える活動】

ICTを活用して切り取ったり、書き込みをしたりすれば分かりやすいのではないかな。
図形や式を使って根拠をもとに説明できるように、既習内容をしっかり確認しておくとういのではないかな。

【同時間接指導・見取り】

とも学びの児童の発言に注目できるようにするにはどうすればよいのか。

授業者 谷崎 蒼太教諭

講師の講話より

中部教科研究センター指導アドバイザー 片岡 さえ先生

○授業については、単式も複式も同じ

- ①基本は「授業スタンダード」
- ②大切にしたい自立解決・・・「見通し」が重要（解決の糸口や視点をつかませる。）
- ③効果的な「ずらし」「わたり」・・・タイミングが難しいが、とも学びでは深い学びになるようにする。
- ④「とも学び」で思考を深める・練り合う・・・安心して意見を言える学級づくり
- ⑤単元の組み方・・・重要教材を可能な範囲でずらす。
- ⑥学習リーダーの育成・・・学習進行表（低・中・高）を学校の状況に合わせてつくる。
- ⑦より効果的な提示を心がける。
- ⑧子どもの反応をできるだけの確に予想する。
- ⑨ICT機器を活用する。
- ⑩地域の人材を活用する。



★授業づくり講座からの学びを生かして各校で取り組んでほしいこと
・解決の糸口や視点をつかませるような「見通し」の設定をする。(これなら個で考えられるようになるようにする。)
・「とも学び」で自分の考えが広がったり深まったりするようにする。